

学校教育目標 グローバルな視野をもち、主体的に活動するたくましい上江っ子の育成 ～主体性・自律心・向上心にあふれた心身共に健康な上江っ子～			
めざす児童生徒像 ○礼儀正しく、元気のある子 ○ 目標をもって、自ら学ぶ子 ○ 責任をもって、確実にやり遂げる子			
項目	重点目標と主な達成手段	具体的な取組	成果と課題（改善策等）
学力の向上	<p>(1) 時間の設定や指導方法の工夫等組織的な体制づくりに努め、個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>(2) 重点支援校指定等を生かし、管理職も積極的に関わることで、職員の授業改善を図る。</p> <p>(3) 小中一貫の特色を生かした望ましい学習習慣や家庭学習の定着を図る。</p>	<p>○ 算教科において、全学年 TT による個に応じたきめ細かな指導体制を整備し、指導効果をあげている。</p> <p>○ 業前、業間の時間を活用し、漢字・計算の習熟のため、複数の教師で指導を行っている。</p> <p>○ 4+4 のチェックポイントを意識した授業を行うとともに習熟の時間を確保しながら、学力の定着を図っている。</p> <p>○ 全職員が年間3回授業公開を行っており、指導主事からのフィードバックを受け、授業改善に努めている。</p> <p>○ 小中で系統性・継続性のある教育課程の実施、充実を図っている。また、小中教員による乗入授業の実施。 ・ 中学部の理科担当が小学5・6年生へ理科の指導 ・ 中学部の音楽担当が小学4～6年生へ音楽の指導 ・ 小学部の家庭担当が中学生へ家庭科の指導</p> <p>○ 小中合同の学習部会で共通理解を図り、各学年の実態に応じて立腰教育の推進、基本的な学習習慣を確立するために学習用具の整理、1分前黙想等の共通実践を行っている。</p>	<p>○ 9年間を見通して、学力向上につながるように、個に応じた指導を今後も続けていく。</p> <p>● 重点支援校訪問で授業改善に向けて授業改善、F・Bを行うことにより教師の意識の向上は図ることはできた。しかし、みなほの検査結果を見る限り、学年によって異なるものの、学力の状況は十分とは言えない。下位に位置する児童の学力の引き上げも視野に入れながら、確実に力をつける指導方法の研究をしていかなければならない。</p> <p>○ 日々の基本的な学習習慣の定着が学力向上に繋がることから、小中9年間を見通した指導を行っている。</p>
豊かな心の育成	<p>(1) 読書活動の推進のための積極的な働きかけを図る。</p> <p>(2) 元気なあいさつを基本に、主体性のある児童会の活動を促し、望ましい人間関係の醸成を図る。</p> <p>(3) 小中一貫の特色を生かした積極的な生徒指導に努める。</p>	<p>○ 読書月間、お話玉手箱等、子どもたちの興味・関心のわく取組を積極的に行い、読書に親しむ環境を整えている。</p> <p>○ 毎朝、あいさつ運動を行っており、中学生の模範的なあいさつの仕方に小学生が学び、校舎に元気のよいあいさつの声が響いている。また、人間尊重に基づいた望ましい人間関係の醸成を図るために、道徳や学級活動を中心に全教育活動を通して指導を行っている。</p> <p>○ 子どもたちの健やかな成長のために、小中学校の職員が常に情報交換を密にしながら対応し、よりよい方向付けができるようにしている。</p>	<p>○ 家読（うちどく）を励行することで、家庭での読書量増加を図る。</p> <p>○ 小中の子どもたちを間近で見ることができるよさを生かし、連携をして児童生徒を見守り指導を行う。</p> <p>● 現場での指導を継続し、あいさつ運動を行っているが、まだ十分とは言えない。中学生のあいさつをお手本にして更に、元気よくあいさつができるように、共通理解・共通実践（指導）を行っている。</p>
体力の向上	<p>(1) 小中一貫の特色を生かした体力向上プランの実施及び食育の推進を図る。</p> <p>(2) 立腰指導の徹底や運動の推奨をとおして体力の向上を図る。</p>	<p>○ 運動を好む子と運動を苦手としている子の二極化が見られたそこで、体力向上プランをもとに体育学習の更なる充実を図るとともに、スポーツタイム、長距離走旬間、なわとび月間等の活動を通して、運動の楽しさを味わわせている。また、合同運動会、合同ロードレース大会を実施することで、競技等に向かう姿勢、練習、準備、片付け等の態度等について小学生は多くのよい刺激を受けている。</p> <p>○ 年間を見通して立腰指導、食育指導を行うことで、姿勢や成長期における栄養について実践できる子どもを育成している。</p>	<p>○ 体育科の時間を中心にしながら、自力登校や外遊び奨励等、日常的な活動を通じて体力向上を図っていく。</p> <p>○ 食育について、給食時間を中心にしながら指導し、家庭とも連携を図る。</p> <p>● 立腰姿勢の維持を徹底させるために、立腰集会を行い、意識の高揚を図るとともに、小中学校の学習指導のことから指導を行い、定着化を図る。</p>
地域に貢献する人材の育成	<p>(1) 「えびの学」を中心に、体験活動を積極的に取り入れることで、地域に対する愛着や理解の深化を図る。</p> <p>(2) 積極的な地域・関係機関との連携や外部人材の活用により、地域に開かれた教育課程の実現を目指す。</p> <p>(3) 小中一貫の特色を生かした系統的なキャリア教育の充実を図る。</p>	<p>○ えびの市の自然、祭り、伝統芸能、歴史についてそれぞれの学年の実態に応じて、地域と連携を図りながら計画的に実施し、えびの市のよさや素晴らしさに気付かせる取組を行っている。</p> <p>○ 地域支援ボランティアを通して、ガイドや講師の学習支援のサポートを依頼したことで、学習をより効果的・効率的に行うことができています。</p> <p>○ 学級通信、学校便りの定期的な発行、H・Pの随時更新等積極的な情報の提供を行っている。緊急を要する場合は、「しらはとメール」で、職員・保護者に情報発信している。</p> <p>○ 地域にある公共施設等へ実際に見学に行くことで、その施設が地域社会へ果たす役割や思い、願い等について気付かせることができた。また、積極的に出前授業（もの作り教室、手話教室、味覚教室等々）で講師を招き、子どもたちの興味・関心を高めることにもつながり、指導効果をあげている。</p>	<p>○ 今後も「えびの学」の時間を中心にして、えびの市のよさを指導していくが、地域支援ボランティアも積極的に活用していき、更に充実したものを目指す。</p> <p>○ 新聞等への取材依頼も含め、H・Pの随時更新、学校便り、学級通信、学級懇談会等で学校の様子を積極的に発信していく。</p> <p>○ 正しい勤労観、職業観を支える基礎基本の学力を定着を図るとともに、中学部の職員の出口指導を見ることにより、意図的な指導を学年の実態に応じて行う。</p>